

奈良県・市町村長サミット

平成24年2月20日

【司会】 ただいまより、奈良県・市町村長サミットを始めさせていただきます。本日はお忙しい中、また寒さの厳しい時期にもかかわらず、ご参集を賜りまして、誠にありがとうございます。

報道機関の皆様をお願い申し上げます。開会挨拶の後の取材につきましては、自席にてお願い申し上げます。

それでは、開催に当たりまして、奈良県知事、荒井正吾よりご挨拶申し上げます。

【荒井知事】 今日は前金沢市長、山出様をお迎えしての勉強会でございます。山出様の経歴等は後ほどご紹介があると思いますが、金沢市長を5期務められました。その前は市役所にお勤めで、地元の金沢大学のご出身です。その間に金沢市は飛躍的に発展いたしまして、良い市長がいると、こんなに発展するものかと。いや、言い方によっては失礼に聞こえるかもしれませんが、本当に全国にも喧伝されるといいますか、評判になるような市のご発展でございます。いろんな気配りをされながら、中央とも折衝しながら、新幹線が26年度に金沢市までまいります、富山県とタッグを組みながら、金沢市まで持ってこられるように尽力をされました。今日、お話になっていただきますのは、いろんなまちづくりのいろんな工夫でございます。かねてから、いろんなまちづくりに工夫をされているというのは聞いておりましたが、今、金沢市に時々行きますが、本当に気配りのある素晴らしいまちづくりをされておられます。素晴らしいまちになるもんだなというふうにつくづく思って、かねてから尊敬申し上げておりましたが、今日、このような会に来ていただくことになりました。誠にありがたく思っております。いろんなまちづくりの勉強の中で、少しでもまちづくりに役立つきっかけになればと思います。

県はやはり基礎自治体第一でございますので、基礎自治体のされることに全面的支援をします。肩代わりはしないけど、支援をする。市の肩代わりは、僭越でございますのでしませんが、ご支援は十分させていただきたいという思いで行政をとっております。市と県の関係もよく考えながらの勉強会でございますが、このような立派な市長さんがおられて市が発展するというのは、本当にうらやましく、素晴らしいことだというふうに思っております。今後ともご指導賜りたい市長さんでございますので、ご紹介を申し上げたいと思

います。よろしくお願いいたします。

【司会】 ありがとうございます。

それでは、講演会を開催させていただきます。本日は、前金沢市長の山出保先生に講師をお願いいたしております。山出先生は、金沢市でお生まれになり、現在も金沢市にお住まいでございます。金沢大学をご卒業後、金沢市役所に入庁されまして、昭和62年に金沢市助役に就任をされました。そして、平成2年に金沢市長に当選をされ、以来5期20年の長きにわたり、市長として金沢市の進展に多大な貢献をなさいました。この間、石川県市長会長、そして、全国市長会長の要職に就かれ、平成12年に、日本建築学会文化賞を、平成22年にフランス共和国のレジオンドヌール勲章のシュバリエ章を、さらに昨年11月には、旭日重光章を受章されるなど、広くその功績が認められ、現在も各地で貴重な経験に基づく講演活動に精力的に取り組んでおられます。

本日は、先生に、「顔の見えるまちづくりと地方分権」と題しまして、ご講演をいただきます。なお、ご講演の中で、金沢市の指標をご紹介いただくとのことでございますので、奈良市の指標を加えて比較をいたしました資料も別途ご用意させていただいております。参考にしていただければと思います。

それでは、山出先生にご講演をいただきたいと思います。先生、よろしくお願いいたします申し上げます。

【山出講師】 荒井知事さんが、国交省にいらっしゃる時から、いろんな意味でご指導をいただきまして、そして、ご厄介になってきました。今日、こんな形で奈良へ来るようにということでございまして、参りました。先生と言われると恥ずかしゅうございますし、そんな人前へ出てお話ができる立場ではありませんけれど、経験をお話させていただくと、報告をさせていただくと、こんなことにさせてください。

それにつけては、昨年の9月、紀伊半島に大きい水害がございました。私もテレビにくぎづけでございまして、五條市、天川村、十津川村、尊い犠牲も出ました。改めてお悔やみを申し上げながら、お見舞いも申し上げながら、是非、一日も早い復興を祈りたい、このように思っています。

知事さんも、早速災害に強い地域づくり、これを標榜されていらっしゃいます。併せまして、経済の活性化、暮らしの向上、こういうことをおっしゃって、皆さんと一緒に励んでくださっておりますお姿を、今日このような形で拝見をしまして、深い敬意を表したい、このように思います。

私、石川県でございまして、知事さんと仲が良かったし、知事さんは僕をかわいがってくださったんですけど、石川県にこういう形の会議がございません。素晴らしいことだというふうに思いました。心から敬意を表しながら、奈良県のご発展を祈りたい、このようにまずは思います。

今、司会の方からご紹介がございましたが、20年間も市長をさせていただきました。6回目の選挙は敗れましたけど、しかし、まあ、精いっぱい働いたつもりです。結構、我ながらやってきたつもりでございまして、そのことのご報告を申し上げながら、もう1つ、今日、懐かしいお顔も見られますけれども、平成15年から4年間、全国市長会の仕事をさせていただきました。大変ご厄介になりました。改めて、お礼を申し上げながら、これからどういうことになるのか、やはり関心もございしますので、まずはまちづくりのお話にあわせて、分権の話をさっと皆さんと一緒におさらいするという形にさせていただいたらありがたい、このように思います。どうか、よろしく願いをして、ご挨拶にさせてください。よろしくどうぞ。(拍手)

パワーポイントでお話をさせていただきます。与えられた時間が3時20分まででございますので、時間は厳守したいというふうに思います。

皆さんのまちと違しまして、金沢は雪があるんです。おそらく金沢市役所も、今年に入りまして3億か4億の金を使っているというふうに思っています。そんな中からいいますと、奈良県はうらやましいなど、本当にそう思います。除雪の金だけは、完全に消耗的な経費でございまして、後に残りませんので、そういう経費の要らない奈良県はうらやましいなど、そんなふうに思いました。

それじゃ、金沢市で私がやってきましたことを、報告をさせていただきます。「顔の見えるまちづくり」、こういうことにさせていただきました。私は、人の真似はあまりしたくないという一念でありました。市勢の概況をさらっとおさらいをします。人口でございしますが、今、44万5,000人ということになってございまして、この間の国調人口も伸びておるのであります。石川県全体の人口は減ってきていますけど、金沢市の人口は伸びているということでございます。

産業構造でございしますが、圧倒的に3次産業が多うございまして、75.8%。1次産業は1.6%、そして、2次産業が22.6%であります。3次産業に特化をするという傾向はやむを得ないことだというふうに思いますけれども、そうしますと、私にしますと、1次産業と2次産業をどうするかということは、市長在職中の重い重い課題でございました。

そこで、商店数とか商品の販売高でございしますが、ずっと減ってきています。おそらく皆さん方のまちも同じだろうというふうに思っています。双方ともに減ってきています。これ、どうやってとめるか。なかなかいい策がありませんでした。しかし、苦労はしたつもりです。これ、先ほどは卸で、今度は小売でございしますが、小売も一緒であります。店の数も減ってきています。そして、販売額も減ってまいっています。これ、2次産業でございまして、工業出荷額、製造品出荷額ですけど、これもなかなかうまいこといきません。事業所の数も減ってまいりました。ここにも苦しみました。皆さんと一緒に苦労したつもりです。しかし、うまいこといきませんでした。

この観光客だけは、何とか増えてくるのであります。上は兼六園を訪れる、金沢市を訪ねてくださる国内外のお客の数、これは微増であります。下の赤い線は外国人でございまして、外国人は伸びてきています。まちの中で、外国人の顔を見ることも別段珍しくなくなりました。まちはきれいでなきやいかんなど、本当にそう思っています。

市税の収入でございしますが、市民税、これは停滞をしています。法人市民税は一番下でございしますが、これもなかなかいい調子にはまいりません。市債の収入が大きく減って、ここへ来てまた増えてございしますが、減ったのは公共事業を抑えたからであります。ここに来てまた伸びていますが、これ、特殊な事情でございまして、ごみの処理センターの修繕をしなきゃいけない、改築をしなきゃいけないというふうな事情があったからだと、こう理解をしておいてください。

そこで、経費の面でございしますが、先ほど言いましたとおり、投資を抑えてきましたから、投資的経費は落ちてきました。ここへ来てちょっと増えておりますのは、先ほど申し上げたごみの処理センターの関係であります。問題は扶助費なのでありまして、扶助費は伸びてきています。これは、皆さん方のまちにおいても同様だというふうに思います。私が問題にしたいのは、投資的経費はみんな落とした。しかし、義務費である扶助費は増加の傾向にある。地方財政計画は投資を落とす、このことは当然としてやりました。しかし、地財計画の上で、扶助費を増やすということはなかなかしてくださらない。私はこの点は、大変不満でございました。投資を地財計画上減らして、義務費である扶助費を伸ばさない、このことは、即、交付税の基準財政需要額に反映をされてくるわけでございまして、扶助費を増やしてもらえないということは、即、交付税総額が伸びないと、こういうことになるわけでございまして、地方財政の非常に難しいのは、ここにあるというふうに思っています。ここに来て、社会保障にかかわる単独事業のことの議論がなされています。地方

は、生活保護費が増えてきてどうしようもない。医療費も増える。国保の繰出金も増える。これを、一体どうしてくれるのか。こういうことが今、東京で議論をされてきていますけど、私は当然のことであると、このように思っています。

金沢市の財政指標でございますが、経常収支比率は88.3%、これはまあまあだというふうに思いますし、実質公債費比率は9.2%、これもいい部類だというふうに思っています。結構、繰上償還をしました。金利の高いものを全部返して、こんなことを一生懸命やって、少しでもゆとりができるとすぐこのことをやってまいりまして、公債費比率は下がってきたということです。財政力指数は0.798、交付団体であります。基金の現在高が130億9,900万円。やはり計画的な行政運営を、財政運営をしようといたしますと、時々大きいプロジェクトに対して基金を準備しておくということは、最小限必要だと思っています。平成23年度の一般会計の規模でございますが、1,632億2,000万円です。ここに予備費として7億2,000万円と書いてありますが、7億2,000万円のうち2,000万円は一般予備費、残り7億円は特別需要予備費といひまして、こんな予備費を計上しておる市というのは、全国で金沢市だけだというふうに思います。何でこんなことをするのか、何でこんな変わったことをするのかということなんですが、年間の追加経費の財源を、7億円で準備を当初からするのであります。ですから、税収は全部表に出しますので、税の出し方については公明正大、公開、当初から公開という原則であります。そして、補正予算のたびに7億円を落として、落とした額を歳出に乗せるというやり方、予備費から歳出経費に振りかえるというやり方です。こういう手段、方法を講じてまいりまして、随分長い間やってきました。おかげさまで、比較的健全財政は堅持できているのではなかろうかなと、そんなことを思っておるんです。

まちづくりのお話をさせていただきます。まちは近代化しなきゃいけない。金沢のまちというのは、実は台地が3つありまして、その3つの台地の間に川が2本流れて、その2本の川が用水になってまちの中をずっと張りめぐらすのであります。用水の数が55本もある、大変特異な町であります。この用水を活かさない手はないというふうに考えてきました。この緑で点線をしてあるところ、これがまちの真ん中なのであります。お城の周りというふうに理解をしてください。青い点線の中、ここは古いまち並みを残していますので、これは、是非残したいと。日本の中で焼けた経験のないのは、奈良と京都と金沢だと思っています。だから、これを大事にしなかったら、よそのまちとの比較にならない。金沢の金沢たるゆえんは何かと聞かれたら、古いものをちゃんと残していますよと言いたい、

そう思ってまいりました。

そうかといって、古いものを守るだけでは、まちは伸びていきませんので、新しいこともしなきゃならんわけでありまして。そこで、金沢市のまちで、どこを開発し、近代化をするかといったら、その赤いところでもあります。赤いのは、香林坊、片町、そして駅、駅から港、これを都心軸といいまして、都心の軸線なんです。背骨。ここはひとつ近代化をしよう。そして、駅から港にかけて新しいまちをつくろうという考え方でありまして。新しいまちをつくろうという考え方の反面は、古いところは残そうということでございまして、私は金沢のまちがもしだめになったとしたら、残すところと開発近代化するところをごっちゃにし、これをやったらまちそのものはなくなる、こういうことを市民の皆さんに絶えず訴えてきました。守るところと、そして、開発近代化するところを区分けしよう。これを区分けの理論と言うよと、こんなことをずっと言ってきたのであります。

この2つの区域はごっちゃにしては絶対いけないと思ってきました。まちの真ん中は戦災を受けておりませんし、道路は狭い。狭いから混雑をする。そこで、国交省にお願いをしてできたのが、外回りの環状道路、青いリングなのでございます。このうちの実線部分はもうできました。この実線部分ができたことによって、まちの拠点性、即ち、まちの影響範囲というもの広がり、これは格段に目に見えてきました。まちの中のCO₂の排出量、これは格段に落ちてきました。環状道路の意味は大変大きいというふうに思っています。山側の実線部分ができましたので、海側を今、やっているところでございまして、このうちの実線部分はもう使っているわけで、点線部分を工事中と、こういうことなのであります。そこに文という字が散らばっていますが、これ大学なのであります。地方都市としますと、大学の数の多い町でありまして、大学の数は19、生徒と先生の数3万5,000人いますので、私は行政であれ、経済であれ、大学の知恵を借りない手はない、借りないと損だ、そういう考えがありまして、大学とは随分仲良くやってまいったつもりであります。

これがちょうど駅前なんですけど、金沢は雨の多いまちでございまして、お客様が雨に濡れないように傘をかけました、ドームをつくった。ガラス張りであります。そして、この門が、そこにはございますが、鼓門と言いまして、「ぼんぼん」とたたき、あの鼓を模したわけでありまして。これ、やりましたら、大げさ過ぎるとか、異様だとか、随分批判も食らいました。しかし、ドームは現代です。お客様をやさしく迎える、そんな心遣いだ。鼓門、これは伝統だ。あの空間は、現代と伝統を同居させた空間なんだと、こういうこ

とを言ったわけなのであります。この間、実はうれしいことに、アメリカの旅行雑誌でトラベル・レジャーという雑誌がありまして、その中で、この駅のドームと門を取りあげ、世界の14のきれいな駅の中に入れてくれたのであります。アメリカの旅行雑誌でございまして、私はこれで安心をしました。助かったなというふうに思っておるのであります。

そこで、広域交通体系のお話をさっとしておきます。今、北陸新幹線は、金沢開業が2014年、これは間違いなく来ると思っています。間違いなく来ます。これを敦賀のほうへ延ばしていくということでございまして、本席は是非、関西の皆さん方も北陸新幹線は大阪まで来て初めて生きるんだぞということをこれからも忘れないで応援をしていただきたいと、こんなふうをお願いをしておきたいと思っています。

金沢と名古屋の間の東海北陸自動車道は、既に開通をしました。広域交通体系も少しずつ整備をされてくるわけでございまして、早く北陸新幹線が東京から大阪まで来てほしい、こんなふうに願っています。皆さん方にしますと、リニアは奈良へと。これもいいなと思っています。是非、頑張ってくださいと思います。

そこで、飛行機ですけど、これは金沢に飛行場はありません。小松です。小松とソウル、上海、台湾との間に定期便が飛んでいます。航路でございしますが、これは金沢に港がありますので、金沢から釜山、上海、大連・青島、釜山・大連、北米、こういうところへ船が走っています。これをさらに新しい航路をつくるとか、便数を増やすとか、こういうことをしなきゃならんわけでありまして。

そこで、私は、よそのまちよりもいいまちにするときには、ぜひ伝統環境は残しておきたいし、まちの景観は大事にしたいと、この一念でまいりました。その状況をご報告します。

金沢は、2009年1月に、歴史まちづくり法に基づきまして、認定を受けることができました。歴史都市ということになったわけです。金沢のまちは、前田藩の初代利家が基礎をつくります。1583年です。420年前。奈良や京都とは比較になりません。金沢は古都だということを言う人がいますけど、私は即座に否定をしています。恥ずかしい、それは違うと。金沢は古都ではないよと。また金沢は小京都だと、人はよく言います。私はこれも違うと思います。奈良は百済の文化の影響を受けました。京都は中国から、しかし、京都はお公家の文化です。金沢は侍の文化です。江戸の文化、これが金沢なのでありまして、金沢は歴史において遠く、奈良や京都に及ぶことはありません。京都とは、侍でない、公家の京都との対比において、金沢は違うわけです。そうすると、金沢は金沢、そ

んな言い方をさせていただいています。金沢は金沢なんです。よそではないんだ。よそのまねできないものでいいんだ。これでいこうと、こんな考え方なのであります。

前田の藩政は14代続くんです。侍は14人。しかし、どの侍も戦争をしませんでした。そして、この間の第2次世界大戦では、皆さん方のまちと一緒に戦災を免れたわけでございますので、まちができてこの方、戦火に遭った体験のないまち、これが金沢です。そんな意味で、金沢は平和都市と呼ぼうと、平和を大事にしよう、こう言っておるのであります。

黄色いのがお城でありまして、このお城の周辺、そして、川が2本流れていて、その間に赤とか青は、これ用水とか堀なのでありまして、こういうのは残していかなければなりませんし、赤い玉みたいに塗ってあるのは茶屋街であります。これも残さなければいけない。茶屋文化というのは、江戸文化なのでありまして、絶対にこれは残さなきゃいけない、そう思ってまいりました。

天守閣は焼けて無いんですが、お城の修復は、県がやってくださっています。ありがたいことです。そして、ひがし茶屋街、この保存は金沢市がやりました。面的保存をしたわけであります。今、金沢市にとって最大のテーマは、町家の保存、再生だと思っています。町家の数、即ち昭和25年以前に建てられた建物の数は、6,700戸あるんです。そのうち、700戸は放置され、300戸は毎年消えていくということでございまして、この町家を残していくということは、大変大事なことだと思ってまいりました。これは、下はレストランに変えた例です。工房にしてもいいし、住まいにしても残してもいいし、できたらまち中に店があったらいいなど。豆腐屋も八百屋もあったらいいなど、そう思ってまいっていますし、こんなことがこれから金沢市の力を入れなきゃならない大きい仕事ではなからうかと、こう思っておるんです。

古いものを残そうとしますと、職人を大事にしなきゃなりません。私は、職人大学校というのを15年前につくりました。埼玉県がものづくり大学校というのをつくっています。学校を出てすぐ入校をさせて教える、そういう類の学校ですけど、金沢の職人大学校は違うんです。昼、職人として働く、そして晩、ここへ来て、習うのであります。何を習うか。お寺の、あるいはお宮の屋根は反っています。反らすテクニックを知っている職人というのは、金沢市内ではもういなくなりました。今のうちに教えておかないとだめだというふうに思いまして、実はこうした大学校をつくったのであります。大工のほか、建具も、畳も、壁屋も、瓦屋も、庭師も、石工も、板金も、表具も。9つの業種の職人の技を鍛える

場所をつくったわけでありまして。昼、請負会社へ行って働きまして、晩、ここへ来て習うんです。金沢にお茶室はよくありますが、お茶室が傷む、あるいは別にお茶室をつくるということになったら、お茶の流儀を知らなかったら、お茶室はできないわけです。こうした流儀を知っている職人というのは、もういないんです。今しかないと思ってやりました。

私は、20年間、市長をさせてもらいまして、その中で、「市長、おまえさん、一番よかったと思う仕事を言うてみい」と言われたら、僕は職人大学校を挙げたい。なぜ、よかったかという、習った人が一生懸命、そして、大変熱心です。「市長、おまえさんの言うとおり、勉強した、仕事をくれ」こんなことになります。「よし、わかった。それなら、県はお城の中を修復しとるから、頼んでやる」と。また「お寺やお宮を修復し、保存する仕事をあんたらに頼むから」こう言うておるのでありまして、私は、職人大学校へ行くことが楽しい。市長をやめてから、この間呼んでくれまして、1時間しゃべりました。結構きついことを言うんです。「職人というものは、お金を欲しがったらだめや」と、こんなことまで言うんです。しかし、慕ってくれますし、私も心底かわいい。職人の手仕事を、これ学問的に言うと、手工業的工業というんでしょうか、ともあれ、職人とその手仕事を大事にしたいんです。このほかに、農業大学校というのをつくりました。林業大学校というのをつくりました。私の言う農業大学校は、「家庭菜園をつくるために勉強してくれというんじゃないんやぞ、あんた方が、野菜をつくったら、市場へ持って行ってほしいんで、そのための勉強をやってくれ」こういうことなのであります。私は農業大学校とか、林業大学校をつくりましたが、やってよかったなど、こう思っています。

先ほどは、歴史まちづくり法に基づくまちの環境保全のことでございましたが、これは文化財保護法による文化的景観の保全であります。奈良市さんは、この専門家であることは当然でございまして、私ども、近畿大学の建築学科とは非常に懇意にさせていただいて、市の職員を2人、2年間ずつ派遣をして、そして、大学で勉強してもらいました。文化財保護法に文化的景観という考え方が最近になって入ってまいりまして、この指定を実は2010年2月に受けたんです。これ、僕は本当に大事にしたいというふうに思っています。大変わかりづらい、文化的景観とは何ぞやと。僕は市長でありまして、職人にも商売屋さんにも、どういう表現で教えるかなというのは1つの問題であったんですが、わかりよく、写真で説明をしました。

これは、文化的景観を大事にしなきゃならん場所の図面なのであります。お城と兼六園の周辺と理解してください。これが文化的景観です。雪吊りです。植木屋がつくる景観で

す。これを大事にしたい。これ、友禅流しです。加賀友禅の職人がつくる景観です。大事にしなきゃいけない。そうすると、市は植木屋と友禅の仕事を、力を入れて守ってやらなきゃいかんということになるわけでありませう。

同時に、私は日本のまちをきれいにしなかったら、外国人から喜ばれないなということをつくづく思っただけで、条例の制定をやってきました。伝統環境保存条例、こういう条例を、これ全国で初めてつくりました、それから、あと、たくさん条例をつくりました。景観法を国がつくりましたが、その時に、実は国会へ呼ばれまして、いろいろ参考人としてしゃべったこともあるんです。僕は、日本のまちほど醜悪な景観の状況はないというふうに思っています。何でヨーロッパのまちはきれいで、東洋もしくは日本のまちは汚いのか。僕はこんなことを言ったことがあります。ヨーロッパの人は、靴のまま家の中へ入る。彼らには、家の中と外との区別がないんだ。日本人は、うちへ入ると靴を脱ぎ、そして、座敷へ行く。だから、座敷だけが大事なんだ。そこが外国人との差ではないかと、随分乱暴なことを言ったことがあるんですけど、しかし、笑った人はいません。僕に違うと言った人もありませんから、まあまあ、こうして僕の言い方も続いているんですが、日本とヨーロッパと比較して、何と醜悪な日本の景観かということをおもいます。

この黒瓦を残したい。しかし、ここへきて太陽光パネル、この関係をどうするかというのは難しいテーマになってきました。

これ、用水ですが、用水のふたを取りました。用水にふたをかけて、ここに車が置かれてあったので、車をなくす、駐車スペースを他に求めるといことは大変面倒でしたけど、よう市役所の職員も頑張らして、こんなことにしたのであります。外から水が見えることになりました。やはりまちの風格、品格にかかわるといふふうに思っています。

私はこれも大事だと思っておりますのは、何と醜悪な道路の景観かと。看板かと。こういうことを色の配合を変えるだけで、視覚に訴える影響といふのは随分と違うんです。これ、看板屋さん、最初は反対しました。うるさいと言いましたけれども、私は金沢といふまちは、看板屋さんにとって随分とうるさいまちなんだといふことになっていったらいいなといふふうに思いました。今は、みんな協力してくれます。まちの中の看板業者が協力してくれる。協力してくれないのはアウトサイダーだ、こんなことになっています。市の職員には、「アウトサイダーに対して遠慮しなくていい」と、こういうことを言ったのであります。

私は、ものづくりを大事にしたい。この背景には、いろいろ思うことがありました。今

の世の中は、投機であるとか、あるいは金融であるとか、マネーゲームであるとか、こういうことに走りますけど、本来は、ものづくりを大事にする、実態にかかわる価値をつくるのが大事だというふうに思ってきました。農家の皆さんは土で手を汚す、鉄工所のおやじさんは油で手を汚す、汚れた手で汗をぬぐって、そして、芸術品みたいな製品をつくられている。これがものをつくることの意味であるし、働くことの意味だと、こう思っていました。そんな意味で、ぜひものづくりを大事にしたいと思ひまして、ものづくり条例というものをつくって見たのであります。こんな話を少ししていきます。

まず、金沢市も奈良市とよく似ていますけど、手仕事の盛んなまちなんです。たくさんあります。クラフトはたくさんある。しかし、みんな苦勞しています。そう簡単ではない。後継者もなかなか大変です。こんなたくさんありますけど、これをどうやって守っていくかと。本当に難しい、幅が広い。市役所の職員は、根気がなきゃだめですし、一つひとつに目配りをしていかなきゃいけないということでもあります。

実は、2008年10月でしたが、パリにあるユネスコが、クラフト創造都市という仕組みをつくっておるということを知りました。それじゃ、金沢市が手を挙げてクラフト創造都市の指定をしてもらおうと思って、実はユネスコ本部へ行った状況なんです。松浦さんという日本人のたまたま大使でございまして、大変首尾よく手続きが進みまして、1年足らずで指定を受けました。

創造都市というのは、創造的な文化活動を7つの分野でしている。片やそれを革新的な産業活動と結びつけてまちを元気にしておる、こんな都市をユネスコは創造都市と呼んで、そしてネットワークを組もうという考え方なのであります。日本で今、登録を受けておるのは、神戸と名古屋、そして金沢でございまして、世界で29市あるんですが、名古屋と神戸はデザインで、金沢はクラフトで登録を受けたのであります。何でこんな物好きなことをするか。僕はやっぱりまちのステータスを上げて、世界に挑んでいきたいということがひとつありましたし、もうひとつは、こういうことをすることによって、地域の皆さんを触発をする、督励をする、こんなことを考えてきたのであります。

早速指定を受けまして、友禅の技術振興研究所をつくりました。新しい仕事を始めました。金箔の振興研究所もつくりました。こんなことから実は始めたわけでありまして。クラフトビジネス創造機構、みんなして相談をする、そういう場所をつくりました。

どんな新しい製品づくりを意図しておるかということを知りやすくお話しします。これ、加賀友禅です。着物、値が高いんです。しかし、スカーフをつくろうやとか、ドレス

にしたらどうや、フロアライトもいい、カーテンにするかということがテーマになりました。カーテンは日焼けをしないような加工が必要でございまして、金沢市は、県の工業試験場の指導を受けまして、今、こういうことをやって、これをヨーロッパへ出そうとしておるんです。

これ、金箔です。銀座の店でこういうことをしました。金箔は日本の生産量の100%は金沢と、こう申し上げていいと思っています。昔は仏壇でした。しかし、今、仏壇のない、そういう家庭もたくさん。あっても小さい。そんなことで、箔業界も大変なのであります。これからは、室内インテリアとか、こんなことで勝負をしていこうとかかかっているであります。

これ、ワイングラスです。軸と受け皿は九谷焼、そして、上はガラス。ガラスにしませんと、赤ワインか白ワインかわかりません。ところが、ガラスと陶器はくつつかなかった。全くくつつかない。6年ほどかかりまして、工業試験場で研究してもらったんです。とうとう成功しまして、ヨーロッパへ、これ盛んに今、持ち出しています。結構高いんですけど、珍しがられます。こんな変わったことを是非やっつけていかなきゃいけないと、つくづく思っています。見本市もやらなければなりません。

私は、こういうクラフトを大事にしたい。しかし、これだけでは何とも不満なのであります。そこで、いろんなことを皆さんと相談しました。もともと、石川県とか福井県は繊維の盛んなところございまして、繊維機械、木造の織機から始まって、そして鉄の織機になりました。100年経ちました。そして、ウォータージェットルーム。これ、市内の繊維機械の会社でつくっておるので、中国へ出しています。しかし、繊維は中国に押されまして、これも決して楽ではありません。

楽でないもんですから、繊維機械の部品メーカーは新しい分野へ出てきてまして、これ、瓶詰め機械です。これ、お寿司のベルトコンベアー、金沢の業者です。こんなことは、繊維の部品メーカーがやり出したこと。これでも、僕は不満でございまして、今、申し上げたようなニッチ産業で、金沢市が御飯を食べるということになったら心細い。さらに何かしたいと思ひまして、皆さんと相談をしましたら、金沢らしいということになれば、知的な産業だということになりました。医療とか、環境の分野だと、こういうことでありますので、テクノパークをつくりまして、ここに誘致をしたわけです。横河電機といたら、これ、計測システムの世界的メーカーですけど、脳磁計、こういう医療機器を開発してきてまして、今、生産をしていますが、高いからそうまだ売れません。それから、日機装とい

う会社が透析器をつくっています。これはなかなか景気がいい、元気いっぱいです。こんなことをやってきたんですが、私はこれでも不満でございまして、もっと何かできたらいいなと思っておりましたら、ちょっと局面が変わりました。

これ、40年間かかって、今日までつくってきた港なんです。主体は県なんですけど、県も一生懸命やってくださって、そうしたら、この岸壁横付けにあのコマツが立地をしてくれました。1つ工場を建ててくれて、もう1つ市が地面を持っているところに工場をつくりたいというから、「願ってもない、是非」といって、そして、コマツにその用地を提供しました。そしたら、第2工場を建ててくれて、ここでは、ご覧のとおりブルドーザーやトラクターをつくっている。ここまで来ますと、結構、産業に厚みができてきたかなと、こんなことを実は思っておるのであります。

最後に、金沢は視座を世界に向けなければいけないと思います。これ、新しい美術館です。世界の美術館の仲間入りをしたような感じであります。是非、大事にしたいと思っています。

これ、アンサンブル金沢、県と市と経費を持ち合っているのであります。小編成でスタートしました。もう世界のオーケストラというふうに思っています。これも、大事にしたい。

さて、金沢を世界に広めた人といえは2人いまして、タカジアスターゼをつくった高峰譲吉、この人が1人。もう1人は、仏教学者の鈴木大拙という人です。この記念館をこの間つくりまして、この2人を通じて、金沢のまちを世界に広めていきたいと、こう思っています。

そこで、私は、まちはやはり歴史と文化を尊重したい。世界広しといたって、歴史とか文化を1つとして同じにするまちというのは、絶対がないというふうに思っています。奈良は百済の文化、京都は中国でお公家の文化、金沢は江戸で武家の文化、みんな違うわけでありまして、これを顔の見えるまちに使わない手はないというのは、私の信念なのであります。ここに来て、「市長は、文化、文化と言うけど、スポーツも大事や」と、こういうことを言う人がいます。「それはそうや。スポーツは教育だ。心と身体を鍛えるから大事だ。しかし、文化と違うよ。スポーツというのは、万国共有のルールがあって、そのルールの中で競うのがスポーツだ。文化にルールはないよ。そこが基本的に違う。だから、顔の見えるまちをつくるときには、歴史と文化を大事にしなきゃ」と、こう言うのであります。

そして、「古いものを大事にしなきゃならんけど、新しい仕事をするのを忘れたらダメや、伝統に創造の営みが大事だ」と、こうも言っています。「伝統も新しいことを加えなかったら、それは伝承というんだ。伝統と言わずして伝承という。承という字は承るという字だ。伝承は踏襲と一緒にや。革新の営みというものを加えなかったら伝統でないよ」と、こういうことを実は言っておるのであります。そして、創造の営みを加えようとする、やはり「学術と文化を大事にしなきゃ」、そういうことを言っただけで済んでおるのであります。同時に、私は文化であれ、産業であれ、多様でなきゃいけないと思っています。トインビーは、「多様性が可能性を生む」と言いました。炭鉱のまちは消えていきました。鉄だけのまちは苦しんでいます。図体は小さくてもいいから、頭のいい中小企業がたくさんいる、そんなまちは一番いいと、私はそう思っています。多様なものを内在するまち、それをトインビーが推奨したのでありますが、私はこのトインビーの言葉につけ加えたい。何を付け加えるかといいますと、可能性に加えて「持続性」、この漢字3つを加えたいと思っています。多様なまちであって、初めて持続するんだと、こう言いたいと思っておるのであります。

何はともあれ、自分でやるという気概が必要でございまして、独立の精神がなければいけません。金沢は、クラフトのまち、人間国宝とか、文化勲章受章者は工芸の面ではたくさんおる。しかし、ああいう人たちは、人のまねごとは絶対にしません。人のまねごとをしたら、人間国宝でありませぬし、文化勲章はもらえないわけです。絶えず新しいこと、新しいことを考えていかなきゃならないわけでありまして。私は、自立の気概と独立の精神を大事にしたい。そして、まちは市民の手になる芸術品だと言いたいと思います。きれいでなきゃいけない。自分さえ目立てばいいと、そういう考え方の人たちがたくさんいるまちは、人が来てくださらない。このことを肝に銘ずべきだと、そう思っています。そして、みんなで協力をして働いて、小さくてもいいんで。特色を持ったまちで、世界に通じたいと、こんなことを思ってきたのであります。これが前段のお話ということにさせていただいて、後段、これは分権の話をさらっと、皆さんと一緒に復習をしておきたいと思っております。

衆参両院が分権の推進を決議したのは平成5年ですから、もう20年になります。平成7年に地方分権推進委員会がスタートをいたしまして、そして、機関委任事務の廃止というわけでありまして。私は、これは画期的なことだったというふうに思っています。機関委任事務とは、国の事務、これを自治事務と法定受託事務に分けました。地方の責任領域は格段に広まった、地方こそ頑張らなきゃ、そう思っています。そして、平成11年に分権

一括法ができて、三位一体と書いてありますが、これは平成14年から始まるんです。片山虎之助、あの先生が片山プランをつくったのがきっかけでございました。それから、ずっとこの闘いは続いています。ともあれ、国庫補助負担金はなくそうと。そして、国の縛りを絶って、その分を税源に置きかえようという考え方であります。私は方向は正しいというふうに思っています。

そして、平成19年に分権改革推進委員会が発足を、そして、もろもろの勧告をして、今日に至ったわけであります。この勧告を引き継いだのは今の政権だと、こう言っていると思います。

今の政権のもとで、先ほど言いました推進委員会が勧告をしたもの等を、計画として閣議決定をしています。義務づけ、枠づけの見直し、条例制定権の拡大等でございますし、この中で、長い間、六団体が要請をしてきたのは、「国と地方の協議の場」の法制化だっただと思っています。この法制化はできました。このことの意味は大きかったというふうに思っています。国と地方の間で、真剣な協議がこれから、いろんな面で行われていくというふうに思います。社会保障と税の一体改革、これも重要なテーマであります。

これからの方向、ここに書いたのは一般的な課題、こういうものを羅列してみました。東京市政調査会理事長の西尾勝先生の表現をここへ持ってきました。「法令等の規律密度の緩和」、「義務づけ・枠づけの緩和」です。これから勧告を法律に置きかえ、法律ができたら、それをそれぞれの自治体が条例に置きかえていく、こういう作業に移ってくると思います。三位一体改革、これも補助金をなくして、税に置きかえるという考え方は、私は理論としては正しいと思いますし、そういう方向に継承をされていかなければいけないというふうに思っています。

ただ、ちょっと心配なことがある。ここに来て、消費税増税という問題が出てきました。この問題の影に、税源移譲という言葉がかすんでいったら困るなという気持ちは正直、個人的に持っています。そして、ここに来て、市町村の合併は大きく進みました。市町村が合併で力をつけたということであれば、都道府県がこれから市町村に事務を移していく、こういう方向にならなければなりませんし、都道府県が市町村に事務を移して、府県が少しは身軽になったら、その分は国から都道府県が仕事を受けなければいけないと、僕は思っておるのであります。こんなときに、出先機関の改革の話が出てきました。国は丸ごと、ブロック単位でと、こんなことを言っています。ブロック単位ということは、広域連合を使うということでございますし、その延長線上に道州制というのを考えているのだろうと

思います。道州制を考えているということであれば、国から都道府県への事務移譲ということとは、真っ向から相反します。こんな難しいテーマに挑んでいかなければいけないというふうに思いますし、ここに来て、出先機関改革のお話を見てもみますと、各地から連合とか道州が本当にそういうことをやれるのかと。とりわけ、非常事態の対応はできるのかと、強い懸念の声が出てきています。そうすると、出先機関の廃止と云って、一部国において引き継いでもらわなきゃならないものはあるんじゃないですかと。非常事態のときに、国にかかわってもらわなきゃならない部分というのはあるんじゃないですかと。こういう議論もこれから出てくるというふうに思っています。

こういうことに加えて、ここに来て、大都市制度、道州制、これは地方制度調査会の大きいテーマになるというふうにお聞きをしています。今日や明日のことでなくたって、論議はしないわけにはいかないと、そういうことになってきたと思います。

市町村にとりまして、具体のお話をしますけど、まちづくりに関し、都市計画の権限は市町村に移ってきた。長い間の懸案であった農地転用の許可、これも市町村に移ってきた。市町村のまちづくりに関する権限というのは、従前から見ますと随分と増えてきていますので、これからは条例をつくってまちづくりを進める、このことが大変大切になると思っています。そして、私からすると、法律をつくるときに、法律の条文の中に、こことここは条例に任せますよ、条例に授権しますよと、こういうことを法律に書いてほしいと、思っておるんです。しかし、国もさるものですから、詳細まで、一部詳細まで法律の中に書き込む可能性は十分ある。そのことを国会が抑止し得るか。その能力が国会にあるかということになると、僕は一抹の不安を感じています。いずれにしろ、条例でまちづくりを進めていくということの、これからの大切さ、そういうものを痛感する次第です。

金沢市では、ここに書いてございますが、これだけ最近でございまして、条例をつくりました。条例をつくるに当たって、僕はこんなことを考えたんです。国へ行けば、法制局がある。市役所にはない。専門のセクションをつくらうと。そして、大学の先生と連携をして、とにかく条例をつくる能力を身につけなかつたらだめだなど、こういうことを思って、そして、体制の整備をしてきたことは事実であります。結構、条例をつくりまして、つくれば、勉強になるわけでありまして。法制執務にたけた職員の養成というのをまずしないと、今ほど申し上げた需要にはこたえ切れないと、そう思った次第でございまして。

福祉については、総合こども園のことです。幼稚園だ、保育所だとやっていますが、延長保育も障害児保育もやっていることは一緒ですから、僕は一体であっていいと思ってい

ます。なかなか難しい。怖い人がたくさんいるもんですから、なかなかうまく進まない。今になっても、双方の人たちによって、実施の時期が決まらないうと、こういうことがあるそうでございます。

児童相談所でございますが、これは、実は平成18年に中核市が設置してもいいと、こういうふうに変ったんです。都道府県が児童相談所を持っているんですけど、平成18年度から中核市は設置していいということになりまして、実は、横須賀の市長と相談をしまして、「やってみようか」と言いましたら、「やろう」と答えられ、2人でやったんです。お金がかかります。今、金沢市の場合、一般財源の持ち出しが1億2,300万円、職員の数38人です。ただ、児童の虐待とか問題の深刻さということから考えますと、私は、これはやってよかったと思っておるんです。県が児童相談所の所管範囲でありますと、エリアが大きい。この問題は、機動性が必要でありますので、さっさと行って、さっさと対応しなければならない。市が児童相談所を持てば、エリアは小さいから、機動的な働きができることになるわけです。私は、これはしてよかったと。石川県は、金沢市が児童相談所をやりたいんだったら、「どうぞ」と、簡単に分けてくれました。こんなやっかいな仕事、お金も職員も要る、そんなものやりたいというなら、やってもらえばいいと。ですから、すんなりと移ってきました。児童相談所でなかったら、そう簡単にはもらえなかったと思っておるんです。しかし、法律がやってもいいということを決めると、それなら、児童の問題は大事だから市でやりましようと思っただったんです。やってよかったと、本当にそう思っています。

生活保護の問題は、今、いろいろ国と地方の間でやっております、景気が悪いから生活保護の被保護者が増えてくるのは当たり前なんですけど、事務の改善面でも、しなきゃならんことがあるんだったらやればいいということで、「暴力団と関わりはありません」ということを書いてもらうとか、あるいは、申請に写真を添付するとか、これから行われていくだろうと思っただいます。

最後に一言つけ加えさせていただきたい。先ほど児童相談所の話をしましたけれども、教職員の人事権の市町村への移譲、これはやるべきだという論者です。平成17年に地方制度調査会も中央教育審議会も、中核市もしくは市町村へ人事権を移すべきだということをお答えしました。地方分権改革委員会は、平成20年に移すべきだと、そういう勧告をいたしました。公の権威ある機関が移すべきだと言っておるわけでありまして、これは実行すべきだというのが、私の主張であります。考えてみてください。学校の設置者は市町村で

す。教職員の身分は市町村です。給与の負担と人事権は都道府県です。政令市は、人事権は持っている。中核市は、人事権の中の研修権限だけを持つ。何とも一貫性のないシステムです。もっとわかりやすく、統一性のあるシステムを確立すべきだと。しかも、市町村の先生は、国や県へ顔を向けるのではなくして、現場の子供に目を向けた教育をすべきだと。長岡藩の「米百俵の精神」の教育は、こういう中から生まれるんだというふうに思いますので、私は、人事権は市町村へ移譲すべきだと、こう思っています。

国は学力の到達目標を明示する。到達度の評価と検証をやる、教科書の検定、義務教育の無償、学級編成基準のナショナルミニマムをつくる、これらは国が担当する。しかし、現場のカリキュラムをつくるようなことは、市町村に任せてほしいと、私はそう思っているのです。

ここに来て、大阪市長さんは、こんなことを言いました。学校教育の方針は、市長が決めると、これに従わないものは罷免だと、そういう趣旨の発言が新聞に出ています。私は、これはいかなものかなという立場です。教育は、政治から中立でなきゃいけないと思っています。1億総国民が教育評論家と言われます。こんなことで正しい教育ができるかどうか。教育は専門の人がいるんですから、その人の意見を聞いて、謙虚でなきゃいけないと、そう思っているのです。県と市の二重性をなくそう、地方が力をつけなきゃ、その趣旨は賛成でありますけれども、教育の政治的中立ということは、絶対に守らなければならない原則だと、私はそう思っているのです。

あらゆることで、国が何をし、地方が何をするか、役割分担は明確でなければいけないと思います。条例をつくるということになりますと、職員の資質能力を高めなければいけないし、自立の気概をみんなが持たなければいけないと思っています。「市町村よ、是非、頑張れ」と、こういうことでなかったら、分権は手元に来てくれないというふうに思います。私は長い間、市長をさせていただきました。皆さんと思いは同じだろうというふうに思っていて、今日はそういう意味で、つたない、本当にまずいお話であったと思いますけれども、悩みを共有する者の1人として、皆さん方と、これからも一緒に励みたいと、このように思う次第でございます。

つたない話を聞いてくださって感謝します。ありがとうございました。(拍手)

【司会】 山出先生、どうもありがとうございました。先生からは、質疑応答のお時間を頂戴しておりますので、折角の機会でございます。市町村長様からご質問等ございましたら、恐れ入りますが、挙手にて、お知らせをいただけますか。明日香村長様どうぞ。

【森川明日香村長】 明日香村の森川と申します。今日、本当に、20年間の様々な取り組みを聞かせていただいて、ありがとうございます。

今日、お聞きかせいただいた中で、きれいなまちをつくれというお話と、新しい匠であるとか、創造的なことに取り組みというお話をお聞きさせていただいて、私はまだなっただけでございまして、勉強もそれを糧にやっていきたいと思うんですが、1つご質問と申しますか、観光客、来訪者が増えておられると。様々な取り組みもされている中で、製造品の販売額とか、そういうのはやっぱり下降の数値をたどっておられるというのが、現実としてありますというお話を最初にさせていただいたと思うんですけども、その辺、観光での産業的な影響とか、そういうものにもまして、やっぱりいろんな数値が下がっていくことをどういうふうに捉えたら良いのか。やっぱり経済的なもの、地方の非常に厳しい状況を前提に考えざるを得ないのかなというのを感じているんですが。

一方で、人口が増えておられるというのがすごいなと思いついて、今、いろんな取り組みをされていることがこの結果としてあらわれていると思うんですけども、その辺のところ、もう少しご説明いただければ。

【山出講師】 ちょっと資料が正確でなかったと思いますのは、実は、小売とか卸の販売高は、あの数字で間違いはないんですけど、それを観光がいくらとか、もっと分類すればよかったんですけど、それがなかったのは申し訳ありません。観光の仕事をもっと皆さん方にお話をさせていただくときは、その数値をここへ持ってこなきゃならなかったと、この点は申し訳なく思っています。

観光だけを取り上げると、お土産屋の売り上げは増えていると思います。しかし、友禅の業界とか、こういうところは、なかなか具合が悪いというふうに思いついて、業種によっては、比較的良いところと悪いところがあるというふうに思っています。ホテルとか旅館の類は、私は悪くはなからうというふうに思っています。確かに、ご覧のとおり、観光客そのものは増えてきておるわけでありまして。特に、外国人は、私は珍しくない状況になってきました。何とも思わないぐらいになってきてまして、確かにその点は良い具合であると考えておるんです。そのときはやはり、外国人が来てくださるようなまちづくりを進めなきゃいけない。そういう意味できれいなまちにしたいというのは、もう本当に強い強い念願でありました。結構、看板のあり方とか、うるさいことを言ってきたつもりなのであります。これは、手は緩めてはいけないというふうに思っています。

同時に、新幹線が来ることは間違いありません、金沢までは。間違いありませんが、お

そらくそうなれば、たくさんの方が来ると思う。しかし、観光の負の部分というものを金沢市民は意識しないといけないということを、最近、市民の皆さんに言うんです。お客が来さえすればいいというもんじゃないよ。そこをよく考えないといけない。東京の資本が入ってきて、そして、文化の普遍性が進む、均質化が進むということになったら、金沢の個性そのものがなくなるよ。ここら辺は、よく気をつけないとだめだということを実は申し上げておるのであります。合掌づくりの白川郷、観光客がたくさん来る。だから、駐車場ばかり増やしてしまった。合掌づくりの建物は、周囲が畑で、田んぼであってこそ映えるので、駐車場になって合掌づくりが映えるとは、僕は思いません。ここら辺が大事なところだよと。儲ければ良いということだけで済まないよということでございまして、個人的なんですけど、確かに観光日本というアドバルーンを上げて、客寄せに走ったことはいんですが、結果として、観光の負の部分の強調がない。ここはいささか残念というのが、私の個人的な見解なのであります。

【司会】 お時間のほうも迫ってございまして、あとお1人方ぐらい、ご質問ございましたら、お受けしたいと思いますが、いかがでございましょうか。

では、知事からご発言でございますでしょうか。

【荒井知事】 大変ありがとうございました。まちづくりの中で、特に観光と歴史と伝統を活用して、資源を活用してまちづくりをされる、その方向、手法、それと、何よりも気概は、山出市長ならではの、世界に誇れるようなまちづくりであったように、改めて感じさせていただきました。すばらしいことだと思いました。我々もまた金沢市に行って勉強したいと思いますが、特に、今日、お触れにならなかった点ですが、金沢市は案内板がすごいです。トイレもきれいです。それから、駅前に大きなガラス張りの屋根があります。みんな奈良は不足しているものばかりであります。観光地としてのおもてなしという点では、本当に見習わなきゃいけないという点で、県の職員も金沢市を視察といいますか、見学に行けということで、何人か行っております。特に案内板、まちの花壇の放水施設等々、非常に子細にわたってのことでございます。

もう1つ感心いたしましたのは、小さなクラフトですね。大きな産業を呼んでくるんじゃないかに、小さなクラフト、多様なクラフトをつくって、あるいは、製造業をつくって、これは我々いろんなまちでできることじゃないかと思えます。いろんな工夫が世界を席卷する、いろんな小さな機械が、売り上げは小さくても、きらりと光る製造業になるんじゃないかと。それが、あまり景気に左右されない製造業になるんじゃないかとおっしゃって

いるように思いますが、感心いたしました。

もう1つは、文化で、昨年5月の連休のときに、ラ・フォル・ジュルネという音楽祭、音楽漬けを金沢市で主導されたこともお聞きしております。そのまねをして、奈良でも奈良漬じゃない街中音楽漬けをしようということで、この6月にドイツの音楽を楽しむムジークフェストという音楽祭をしようかと思っております。

それから、条例とか広告の規制、特に最後の方で、地方の立場、市町村、中核市の立場、地方と地方の関係、大変重要なことをおっしゃっていただきました。市の教員の人事権、今朝も教育長と議論をしておりましたが、人事権を市町村にできないのか、市域をまたがるときに、どうするのかとか、それと、いい教員は引っ張りだこになると、悪い教員は押しつけ合いになると。その調整をどうするんだろうかと。市域にいった上には、今、市の中で、市教でももらっているという話でございましたが、中核市と、また他の市町村の教員の人事権というのも、ちょっと全体、どうするかという課題は、市町村長からもいただいている課題でございますので、今朝もちょっとそのような話も教育長としておりましたので、ちょうど大事な話も触れていただいたかと思えます。

最後の、後の議論にも関係いたしますが、金沢市勢と奈良市勢の概況の比較という資料をつくりました。お手元にあると思いますが、ご覧いただければと思います。奈良市の都市整備部理事さんが来られてますが、市の人口は44万人と36万人で、ちょっと違いますが、大きく変わってはおりません。しかし、その中で、経済的な卸売業、小売業の実勢が圧倒的に違います。商業の面で盛んだと。工業の面でも随分違います。それから、観光客の入り込み数が奈良は金沢市よりもすぐれておりますが、外国人の宿泊者がかつて平成15年までは同じレベルでございましたが、15年以降、圧倒的に違うようになっている。宿泊者数は出ておりませんが、ホテルの様子を見ますと、これも圧倒的に違うのじゃないかと思えます。市税、交付税等財政についても、大変違う面が出てきております。最後の財政指数も、経常収支比率、公債費比率等々、大きな差が出ております。これは、いろんな努力の積み重ねという面があるかと思えますが、人口規模だけでもなかなかいかないんだと。市の持つております背景、歴史などをどう活用するかという知恵が要るように思いますが、県内の市町村におかれましても、類似の市町村の中で、最優秀になられますように、先ほど言いましたように、基礎自治体は何よりも第一だと、私は思っておりますが、それを応援するのが県であり、国でありと。補完性の原則が本当に大事だと思っておりますが、地方の中で、中間自治体のあり方が大都市制にしる、道州制にしる、大きな議

論になっておりますが、基礎自治体と国はなくなるわけではないわけですので、あとはどんな階層になるか、単純な方が良いんじゃないかと。それと、基礎自治体と、基礎自治体を応援するという考え方と仕組みを確立して、それに従った制度にするのがいいんじゃないかと思いますが、今日のお話で、基礎自治体の自立の気概ということに、多いに感銘をさせていただきました。本日は大変ありがとうございました。感謝申し上げます。

【司会】 山出先生、ありがとうございました。講演会はこれにて終了させていただきます。皆様、山出先生に感謝の気持ちを込めまして、盛大な拍手をお願いいたします。(拍手)

それでは、ここで5分程度の休憩をお取りしたいと思います。休憩後引き続き、まちづくりに関する意見交換会を開催させていただきます。

(休憩)

【司会】 それでは。お時間になりましたので、再開させていただきます。

本日も、県の職員が同席をさせていただいておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。なお、ここからの進行につきましては、まちづくり推進局からさせていただきます。

【中尾地域デザイン推進課長】 まちづくり推進局地域デザイン推進課の中尾でございます。本日、奈良県のまちづくりという資料もご用意をさせていただいております。まちづくりは、基礎自治体の市町村が大きな役割を果たしておられるわけでございますけれども、県としても積極的に支援をし、あるいは一緒に取り組んでまいりたいということで行っております。今回は、県のまちづくり施策の考え方、それから、事例について、ご説明、ご紹介をさせていただきたいと思います。その後、各テーブルでご議論をいただきまして、ご意見を頂戴できましたらと思っております。

それでは、資料のほう、1ページ目でございます。まず、本県の現状でございます。地勢、あるいは人口動態ですが、現在は140万人、人口がございませけれども、奈良県、昭和35年から平成22年まで、おおよそ倍増しております。北部の地域は大阪のベッドタウンとして、南部は森林、林業で栄えましたけれども、林業の衰退とともに過疎化が進行しております。人口140万人のうちの9割以上は南部以外でございまして、南部は、一貫として人口の減少をしておるということでございます。

続きまして、2ページ目、地勢でございますけれども、奈良県の可住地面積の割合は23%しかございません。全国最下位でございます。そして、特徴的なのは、市街化区域の

用途なんですけれども、住宅系の用途地域が8割以上でございまして、工業系の用途地域の面積割合は、全国で最下位ということでございます。北部ではベッドタウンとして、住居系の用地が拡大をしてきた。南部、吉野の方の地域では、面積的にはわずかではございますけれども、工業系の用途地域が拡大をしてきたといった状況でございます。

3ページ目にまいりまして、総人口の94%が北部というふうに申し上げましたが、住民の平均年齢は、南部の方で非常に高くなっております。

4ページ目にまいりまして、雇用の話でございますけれども、ベッドタウンということで発展をしてまいりましたので、生産年齢人口の割合は高くなってございます。ただし、その就業者に占めます県外就業率、奈良県外で就業をしている割合でございますが、おおよそ30%、全国で1位でございます。先ほどの工業系の用途地域が少ないというのと相まって、県内に働く場所が少ないというようなことが言えようかと思っております。

続きまして、5ページ目でございます。消費の話でございます。奈良県県民1人当たりの小売業の年間の商業販売額は、全国でワーストの2位ということになっております。実は消費のレベルというものは高うございまして、家計のほうで申し上げますと、家計の収入額は全国で18位、それから、家計の消費の支出は、全国で8位ということでございます。結局は県外で消費をされている割合が高いというようなことで、折角の奈良県内の需要を奈良県内で消費し切れていないという状況でございます。

そして、6ページ目でございます。高齢化率と県税収入ということでございます。ベッドタウンとして発達してきたと申し上げましたが、個人の県民税、住民税の割合が高くなっておるという状況でございます。したがって、今後、高齢化がさらに進み、サラリーマンの方がリタイヤされると、所得もなくなるということでございますから、今後の税収への影響も今の構造のままであると大きくなるというようなことだと思っております。

続きまして、7ページ目でございます。これは、奈良県の経済の状況ということで、産業の連関表で分析をしたわけですが、かつては建設という分野での雇用者所得の割合、高かったわけでございますが、現在は、医療等、これは社会保障とか介護、そういった分野での雇用所得というものが割的に大きくなっております。もちろん製造業が一番ではございますけれども、今は建設、商業、あるいはサービス業を抜いておるということでございます。そういう意味では、商業でありますとか、その他のサービス業は県内需要を賄い切れずに、大阪等のほうに頼っているという状況でございます。

続きまして、8ページ目でございますけれども、そういった奈良県の課題に対しまして

解決していく際に、地域の特徴を活かした解決というものを考えていくことが必要ではないかということで、まちづくりという形で課題を解決していこうというのが、奈良県のまちづくりの考え方でございます。まちづくりとはとございますが、地域の持つポテンシャル、特徴を伸ばして、まちの魅力を向上していこう、そして、にぎわうまち、安全安心なまち、住みよいまちへということで考えております。産業、雇用、医療、福祉など、地域の課題をまちづくりによって解決をしていけないかということでございます。

そして、次のページ、9ページ目で、進め方でございますけれども、まずまちづくりを進めるには、地域のポテンシャルを見つける、見出して、そして、地域の課題解決に向けてそれをどうやって伸ばすかという、アイデアを考えつくということが重要かと思っておりますし、これがまた一番難しいところでもあると思っております。次に、そのアイデアを実現するような方法を検討して整理して、そして実行する。アイデアから実行までの各段階で、市町村と県とが協働して、その内容によりましては、地域の住民の方々との協働、あるいは民間の活力、民間の資本というものも一緒に使っていけないかというようなことを考えております。

10ページ以降では、そのように奈良で暮らして、奈良で働く。先ほども山出先生のほうから自立というようなキーワードがございましたけれども、そのために市町村と県が協働するまちづくりについて、幾つかの取り組みの例をご紹介させていただきたいと思いません。

まず、雇用のためのまちづくり。先ほどデータからもご説明申し上げましたけれども、県外の就業率が全国で1位である。したがって、県内の雇用機会の創出のために、積極的な企業立地を推進していくということで、11ページ目でございますが、これは御所インター周辺のまちづくり。この地域のポテンシャルといたしましては、奈良県は高速道路の整備が遅れていたわけでございますけれども、京奈和自動車道がようやく南へ延伸をしてきたと。さらには、この地域は中南和地域からの通勤可能なエリアであるというポテンシャルがございます。そういうところで、県と御所市が協働して、ここに産業の集積地を形成できないかというような取り組んでいるところでございます。

続きまして、12ページでございます。医療を中心としたまちづくり。県内の医療につきましてはさまざまな課題がございまして、医療の全体のシステムであるとか、あるいは病院の再編というようなことを行っているわけでございます。そういった医療機能の充実の必要性から、橿原の県立医科大学の再編を今、検討しているわけでございますが、その

機会に医療とか健康づくりとか福祉、あるいは住まい、居住、それから教育活動、そういったものを生かしまして、生き生きとしたまちづくりを取り組んでいけないかということでございます。

それが13ページでございます。ここでのポテンシャルは、ここに医科大学の再編を今、検討されていて、当然臨床、あるいは教育、研究の機能もここにあると。あるいは、ちょっと南のほうでございますが、樫原公苑、あるいは西のほうには運動公園など、既存の周辺の施設、こういったものとの連携を図ることで、健康づくり、まちづくりというようなことを構想していけないかというような取り組みでございます。

次に、14ページでございますが、南部地域の振興、紀伊半島大水害からの復興のまちづくりということで、この地域は過疎化、高齢化の著しい地域でございます。ただ、観光や林業というものが地域の特徴ある産業でございまして、そういったものの振興が重要な地域でございます。今回、不幸にも被災をしたわけでございますけれども、被災からの集落の復興を考えるに当たっては、従来からの過疎の問題、こういったものにも取り組んでいくというような気構えで、安全安心で住み心地のよいような地域コミュニティが維持されるような集落、さらには働き口があって、自立ができ、交流が促進され、人が集まる集落を目標に復興してまいりたいと。

15ページ目に絵がございすけれども、いまだ仮設住宅などの避難生活を余儀なくされている被災者の方がいらっしゃるわけでございますけれども、例えば、集落を再編整備するということになれば、医療、あるいは福祉の小さな拠点であるとか、あるいは交流する場づくり、そして、いざというときには避難することができるような防災の拠点となるような施設、そういったものをあわせて整備して、持続可能な集落というものをつくっていけないかということで、災害復興という機会をとらえるというようなのが、この地域の特徴としてあるのではないかと考えております。

続きまして、16ページでございますが、健康づくりと多世代交流のまちづくりということで、核家族化、共働き世帯、あるいは非婚の増加ということで、家族形態が多様化しております。あるいは経済活動のグローバル化ということで、国内の雇用環境が悪くなっております。昔は人々の見守りというのは、家族、あるいは企業というものが見守っていたところがございすけれども、今後は地域がその中核になって、人々を見守っていくような時代になっていくのではないかと。そういった地域を軸に、健康の増進であるとか、多世代交流を図って人々が生き生きと暮らせるような地域、そして空間をつくってい

ってはどうだろうかというものでございます。17ページでございますが、これは奈良市内の南のほうの佐保川沿いでございます。ここでのポテンシャルは、都市内の佐保川という河川、これが憩いの場となっている。そして、県立図書情報館や病院、それから福祉施設が立地をしております。こういった既存の施設であるとか、あるいは、既存の環境を活用して、ここの地域で高齢者を地域が見守っていくような、あるいはできるだけ家の中に引きこもらず、外に出て歩いて健康づくりをできるような、そういったまちづくりを検討し、取り組んでいるところでございます。

続きまして、18ページでございますが、まちづくりの際のキーポイントとして、県が考えている2つのものを申し上げますと、1つ目は、公有財産を有効活用していこう。そして、民間の資本活力を活用していこうということでございます。例えば、公有地を活用して、まちづくりの中核を形成していく。そして、中核施設の整備に当たりましては、民間の資本や活力を活用することで、行政の財政負担を軽減していく。1つの例といたしまして、19ページでございますが、耳成高校の跡地での観光案内施設、農産物直売所でございます。これは、JAが県有地を活用して、農産物の直売所、レストラン、観光の情報発信機能を持った施設、整備、運営をしていくことで、県と合意をいたしまして、現在、取り組んでいるところでございます。ちょうど中和幹線沿いでございまして、もちろん観光発信機能自体は県内全域のものをカバーするわけでございますが、特に中中和に向けた玄関口としての機能も果たすのではないかと考えております。

それから、20ページでございますが、地域住民との協働ということでございます。まず、まちづくり協議会による取り組み。これは行政だけではなくて、住民や地域の各種団体、学識経験者などが一緒にまちづくり協議会といったような組織をして、そこで議論をして知恵を出し合う。そして、地域のポテンシャルを見つけて、伸ばす方向性を確認して、そして、行政だけが投資をするということではなくて、地元の方々も自分たちができることは何だろうかというようなことで、それぞれができる取り組みを出し合って取り組む。そういう意味では、従来からの要望があって、その要望に対応する行政だけではなくて、地域からも積極的なまちを良くしていこうといったような取り組みを出していただいて、全部をあわせてやっていくというまちづくりでございます。

例えばの例といたしまして、21ページでございますが、山の辺の道周辺の史跡や農村資源を活用した賑わいのある農村づくり。地元の方々とともに、まちづくり、農村づくりの協議会をつくって、農村の魅力を高めるような活動に取り組んでいるというもの

でございます。例えば、山の辺の道周辺での新たな魅力あるルートづくりであるとか、景観づくりであるとか、地域の特産品づくりを官民連携で取り組んでいるものでございます。

それから、22ページでございますが、まちづくりNPO、あるいは大学との連携というものでございます。まちづくりに積極的なNPOが中心となって、大学の協力も得まして、いろんな知恵を出してもらいながら、まちづくりの方向性を決めていく。そういったところが地元の自治会であるとか、各種団体にも、まちづくりを呼びかけて、連携の輪を広げて、具体の取り組みに繋げていこうといった取り組みでございます。例えば、23ページ、桜井の初瀬でございますけれども、長谷寺の門前の歴史的なまち並みを生かした景観、にぎわいのまちづくりということで、まちづくりNPOが主体になりまして、そこから奈良県と早稲田大学が包括的な連携協定を結んでおりますので、早稲田大学が取り組みのひとつとして、ここでまちづくり分野の実践を、研究をしながらまちづくりをしているところでございます。

続きまして、24ページでございます。今までが事例紹介でございますが、市町村や地域による積極的、主体的なまちづくりの取り組みに対して、県としても支援をしていっているということでございます。地域の資産とかポテンシャルを活かした地域の課題解決を目指すようなまちづくりを県と市町村が協働してやっていけないかということで、来年度、予算化を検討しているところでございます。県、市町村、それから、地域の住民、あるいは地域の団体、学識経験者、様々な人の知恵を出し合いながら、まちづくりとして取り組む事項を提案して、それを実施していくといったような内容でございます。

25ページ、最後でございますが、まちづくりのアイデアを、これはいろんなところから募集をしております。県の方から提案をする場合もございますが、市町村からの提案にも期待をしたいところでございます。例えば、県ではまちづくりコンシェルジュというものがありまして、そういった相談事項を受けましたら、時間外、休日も関係なく、相談に乗っていこうと出かけられるような体制もとっておるところでございます。そのようなことで、市町村と県とで協働するまちづくりを進めてまいりたいと思っております。

それでは、市町村振興課長からもご講演を踏まえた着眼点の説明をさせていただきます。

【高野市町村振興課長】 少しでもお時間をいただきたいと思っております。先ほど知事のほうからご紹介ありましたが、金沢市と奈良市の比較ということで、右上に参考資料と打ってある資料がございます。内容につきましては、先ほど知事のほうからご紹介がありましたので、割愛させていただきますけれども、最後に、ホテル数につきましてご紹介してお

きますと、一番最後の11ページの表を見ていただきたいと思います。真ん中の観光というところのホテル数というところで、やはり施設数につきましては、金沢市が168、奈良市が144、客室数については、金沢市が9,383、奈良市が4,357ということで、大分差があるということで見ただけのかなと思います。これを踏まえまして、一番下の部分に着眼点として3つ書かせていただきました。奈良市の場合、やはり観光客数は多いんですけども、ホテルや旅館の客室数が少ないということ、それから、卸売業者をはじめとする、産業が非常に弱いということから、法人関係の税収が少なく、財政が厳しいということになってしまっているということ。こういったことも踏まえまして、この後の議論に、この資料も活かしていただけたらなというふうに思います。

【中尾地域デザイン推進課長】 それでは、本日のご講義のほうも踏まえまして、ちょっと時間がなくて恐縮でございますが、各テーブルでの意見交換の方をお願いいたしたいと思います。後ほどご意見を頂戴いたしたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

(意見交換)

【中尾地域デザイン推進課長】 議論が白熱している中、大変恐縮ではございますけれども、ここで市町村長様のほうからご意見を頂戴いたしたいと思います。ご発言をいただけます市町村様、いらっしゃいましたら、挙手によりお知らせをいただけますでしょうか。ご発言はマイクのほうを通してお願いをいたしたいと思います。

田原本長様、お願いいたします。

【寺田田原本町長】 田原本町でございます。少しご説明をさせていただきたいと思っております。今、資料をお配りさせていただいているんですけども、田原本町で今、考えておりますのが、京奈和自動車道が平成25年度供用開始の予定でございますので、その地域、仮称でありますけれども、田原本インターと呼ばれる地域の中心に、産業雇用を創造するゾーンといたしまして、昨年5月に既に準工業地域に指定をさせていただきまして、事業を進めさせていただいておるところでございます。また、表面の一番右側の緑のゾーンを見ていただきますと、見る、学ぶ、体験するゾーンということでありまして、唐古・鍵遺跡の史跡公園を整備をさせていただいておりますので、こちらのゾーンを考えさせていただいております。また、左側のゾーンでございますけれども、健康都市ゾーンと位置づけまして、県のリハビリセンター、また国保中央病院を中心にしたゾーンを形成させていただきたいと思っております。

1 ページおめくりをいただければと思います。先ほど申しました産業・雇用を推進するゾーンといたしまして、京奈和道の一般供用部分を、供用開始を目指しまして、約26.8ヘクタール、昨年において準工業地域に指定をさせていただき、今、鋭意進めさせていただいております。その中におきましては、市街化地域の編入をさせていただきますとともに、操業環境を担保するため、地権者の合意を得まして、地区計画を、既に決定をさせていただいたところがございます。こちらにおきましては、企業立地を促進すべく固定資産税の課税免除、また独自の奨励金制度を創設させていただいて、やっているところがございます。企業の誘致には、もちろんワンストップということ、サービスの提供が大切でございますので、まちづくり推進室というの、新たに設置をさせていただきました。なかなか企業誘致というものが、言葉では簡単でございますけど、非常に難しいところがございます。今、県のお力も借りまして、日本国内であります各企業にアンケートを実施し、田原本町というところに興味を抱いていただいている企業の皆様をリストアップして、積極的に調査、また訪問をさせていただいているところがございます。また、それ以外にも一番大切であります、今現在あります既存の町内の業者を、言葉はどうかと思いますが、逃がさないという意味で、規模の拡大、また他市町村へ、他府県への転出がないようにさせていただいているところがございます。

いずれにしましても、企業立地が円滑に進むよう、町といたしましても、社会資本の整備に取り組んでいきますし、今後、桜井田原本王寺線の拡幅を含めまして、県のご協力も賜ればありがたいというふうに思っているところがございます。

2 番目、次、健康福祉ゾーンと位置づけまして、一番下の地図を見ていただきますと、南の端のほうに、奈良県総合リハビリテーションセンターがございます。また、近接して、県営福祉パークもございます。それと反対側、北側の地域におきましては、現在、国保中央病院、磯城郡と広陵町、4町で経営をいたしておる病院がございます。また隣には奈良県健康づくりセンターもございます。幸いにして、健康づくりセンターのプール、またトレーニングジム等が現在も使われていなかったということがありますので、県のほうのご厚意に甘えまして、無償で貸し付けをいただきまして、現在、工事をさせていただいて、4月1日より田原本町の保健センターとして機能をさせていただきたいと考えております。また同時に、磯城郡としての保健センターとして活用できないかということで、3町におきまして水平補完の事業を進めさせていただいているところがございますし、併設いたしまして、休日診療所も開設をさせていただきます。従来、磯城郡3町でやっており

ましたが、今回、国保中央病院というのが広陵町を含めました4町でやっているということもありますので、4町で休日診療所の開設を4月1日からさせていただきたいというふうに考えております。

また、土木部で考えていただいております川辺のまちづくり、先ほどこの資料の中でも説明がありましたが、農林部のほうで考えていただきます自転車を使いました農村振興というようなことも十分に踏まえまして、飛鳥川の川辺を生かした地域の交流促進、またコミュニティが維持され、人々が集まる地域づくりということを中心に考えをさせていただいております。幸いにいたしまして、現在、国保中央病院の北側には老健施設、また南側におきまして、特別養護老人ホームの建設が進められており、24年度には開設をしていただくという予定になっております。

それから、次のところになります。これは本町を代表いたします弥生時代を代表する唐古・鍵遺跡というのがございます。こちらを現在、史跡公園といたしまして、工事を進めさせていただいております。平成24年からは本格着工させていただき、平成29年の完成を目指しております。これとともに、この史跡公園の整備のインパクトを生かすためにも、周辺施設を整備させていただきたいというふうに思っておりますし、地権者の皆様の意向を把握して、地区計画にも反映をしていきたいというふうに考えております。

その中の史跡公園の中心地といたしましては、下にちょうど地図が載っておりますが、緑の部分が唐古・鍵の史跡公園となります。その北側の部分におきまして、民間の活力を活用いたしました民間施設ゾーンを位置づけ、体験学習などをしていただけるゾーン、体験観光をしていただけるゾーンとさせていただきたいと。また、国道を挟んで、反対側には駐車ゾーンと、そして、施設ゾーンということとさせていただき、2つ3つイメージ図を載せさせていただいておりますが、このような形での整備を進めさせていただいております。

田原本町におきまして、今年が古事記1300年の編纂の記念の年となります。1300年前の大和と今の奈良盆地を比較するすべはございませんけれども、ただ、この記紀の中に載っておりますヤマトタケルが詠んだと言われる、「大和は国のまほろば、たたなづく青垣山ごもれるやまとしうるわし」というのがございます。少なくとも1300年、1500年前の古代の皆様方が見られた景色というのは、今は残っておりませんが、ただ、この青垣山だけは多分1300年、1500年前の昔と変わらず景色を眺められる場所ではないかと思っております。古代の人たちとともに、悠久の昔に心をはせ、古代のロマンに

浸っていただける、そんな展望スペースを設ける形で、田原本町というのをイメージし、皆様に活用していただけるような取り組みを進めさせていただきたいと思いますので、また、皆様方にもお知恵を拝借したいと思います。

以上、雑駁となりましたが、また市町村一まちづくりということで、3つも発表させていただいて申しわけないんですけども、以上でございます。ありがとうございます。

【中尾地域デザイン推進課長】 寺田町長様、どうもありがとうございました。

続きまして、先ほどお手をお挙げいただきました西本町長様、お願いいたします。

【西本安堵町長】 安堵町の西本でございます。こんな立派な田原本町の資料の後で、フリーハンドでしゃべるといことは、非常に難儀やなと思っているところでございます。

私どものテーブルの中で、一番議論になりましたのは、やはり、まちづくりの中で大学の知能、知識を活用してみたらどうかと。それはという話がございました。ただいまフリートークの中で出てきた話です。それはまず私どもの安堵町が既に富本憲吉記念館、これは有名な陶芸の巨匠でございます。この施設を中心に、大学との関わりを去年の秋ぐらいから始めております。うまくいけばなということで、努力はしておるわけでございますが、その辺の事例をいいますと、いや、それは安堵町だけやなしに、もう少し西和の広域で考えてみたらどうかという話が今、くしくも各町長さんの中でございました。もう少し大学との連携の中のまちづくりというのを具体化、西和地域で具体化できればなと。観光面で西和といえば斑鳩というのが代表でございますが、プラスそういう観光の要素も入れてみたらどうかと思っております。

もう1点、金沢の前市長さんが来ておられますが、昔からそういう伝統工芸の職人づくりということは大変力を入れておられるということは、私も承知しております。西和地域におきましても、いろんな伝統産業がございます。これがまた後継者がなかなかないということでございます。例えば安堵町でございますと、昔から灯芯づくり、和ろうそくの灯芯、これにつきましては、日本でも有名でございまして、日本一の和ろうそく屋と言われております三嶋屋さんの高級品は、全て安堵町から出荷しているというようなことがございます。そういうことも含めまして、金箔のいろんな話もございましたが、各地域の伝統工芸、これももう少し見直していく、あるいは力を入れていくこともまちづくりの1つの要因かなと思っておりますので、また皆様方のお知恵、あるいは金沢の前市長さんのいろんな知恵なども拝借したいと思っております。

そんなこと、短い時間の中で、このテーブルで話をいたしましたので、ちょっとその一

端、お話をさせていただきました。ありがとうございます。

【中尾地域デザイン推進課長】 西本町長様、どうもありがとうございました。

他にご発言ございませんでしょうか。松井桜井市長様、お願いいたします。

【松井桜井市長】 地元の桜井の松井でございます。まだ市長にならせていただいて3カ月でございますので、これからしっかりと勉強していきたいなとそのように思っております。

そんな中で、このテーブルでいろいろ話をさせていただきました。24ページの市町村のまちづくりというふうな中で、県、市町村、地域の住民や企業、学識経験者などでまちづくり協議会を組織し、まちづくりの方向性や各主体が取り組む事項を提案し、それぞれが連携して、具体的な取り組みを実施というようなことが載っておりますが、先ほど課長のほうから話がありましたように、私たちの桜井市では、初瀬、桜井本町通り、そして三輪もそのような形で協議会を設置をいたしております。そのときに、自分自身が思っているんですけども、そういう協議会をつくっていただいておりますが、どうもそれがまとまりが欠けているのではないのかなと。これは、桜井だけではないと思います。各市町村の協議会が設置をされておりますが、それが1つにまとまらない。そのときに、市の職員、やはり市町村の職員、一番身近な自治体の者がバーベキューの串役になって、皆さんの意見を聴取して、しっかりとまとめやないかんぞということをはっぱをかけているんですが、なかなかうまくいかない。

そんな中で、県の場合は、横断的な組織、コンシェルジュというのもつくっておられる、そのように聞いておりますので、それらをまとめて一丸となって頑張るまちづくりをしなければならぬと思いますが、そこら辺、どのようにしていったらええのかという知恵を教えてくださいなと思います。

【中尾地域デザイン推進課長】 松井市長様、どうもありがとうございました。

恐れ入りますが、ここで山出先生から、ご助言をいただいてもよろしいでしょうか。

【山出講師】 どうもありがとうございます。今日、お集まりの奈良県ほど、資源のすごいものをお持ちの県は絶対はないというふうに思っています。うらやましいなと思うぐらいでございますが、問題は、百済の文化であることは間違いありませんけど、百済以降、ものをつくるということについて、少し力を入れてもいいのではなからうかなという思いがいたします。それから、何といたって、農林業、吉野杉をお持ちのところでございますし、しかも、僕、時々ちょうだいする果物は苺と柿なんですけど、ああいう立派なもの

をお持ちでございますし、農業とか林業というものを何とかできないのかなと。それは関西市場というバックがあるんですから、僕ら石川県からしますと、捌くのは大阪市場か東京市場です。そんなことを思うと、皆さん方は本当に恵まれているなという思いがいたします。はっぱを僕はいつも地元でかけまして、農業は本当に難しいんですけど、ただ1つだけ、砂丘地の園芸で、これでもう完全に御飯を食べて、後継者もいますし、ゴルフもやっていますし、そういうところが1カ所ありまして、もしもご参考になれば、金沢市の砂丘地園芸をご覧いただくといい。

それから、シイタケの専業農家が2軒ありまして、私もいつも感謝をしながら頑張れ、頑張れということをするんですが、皆さん方のところは、広大な農地と林地をお持ちでございますし、すごい市場をバックにお持ちでございますので、何かならないのかなという思いがいたします。

それから、先ほど富本憲吉さんのお話から、大学のお話がありました。私は大学を大事にしなかったらだめだとの思いがありまして、この点でも、奈良県ほど恵まれた場所はないというふうに思います。奈良県だけでなく、ちょっと県境をまたげば、京都がありますし、大阪もありますし、神戸もありますし、みんな知恵があるはずでございますので、この知恵を借りるということは大事にすべきでないかとの思いを持っています。

伝統工芸を守るということは、本当に難しいことで、金沢の例で言いますと、加賀友禅がなかなか大変なのです。僕は着物を着るほうですけど、なかなか安くありませんから、そうたやすくは買えないんです。だから、これほど難しい業種はありません。さらに着物だけで済みませんで、この中に草履とか雪駄をつくってらっしゃるまちがあったんじゃないですか。何というまちか、まちの名前は知りませんが、そういうまちがおありだったはずで。あっ、三郷町ね、そうです。着物をつくろうとすると、下駄も要りますし、足袋も要りますし、それから、和傘が要るわけです。アンブレラというわけにいきませんので、こういう和傘をつくる職人なんていうのは大変なのです。今、ようやく1人、何とかありまして、ここはやはり根気しかないんじゃないですか。根気と頑張りと、そして、市役所の職員は本当に最後まで、これが好きで好きで私は頑張るといふ、そういう職員がいないと、なかなか難しいなというふうに思っています。

是非、頑張ってくださいとありがたい。金沢から着物を売りたい、については草履も要りますので、三郷町の町長さん、是非よろしくお願いをしたいと思います。本当に、僕は恵まれた資源をお持ちのところだと思いますので、決して望みなきにあらずで、大いに可能

性を秘めておるといふふうに思いますので、要は一人ひとりの頑張りでないかなといふふうに思います。ご発展を祈っています。

【中尾地域デザイン推進課長】 山出先生、大変貴重なご助言をどうもありがとうございます。それでは、最後に荒井知事からご発言をお願いいたします。

【荒井知事】 山出様から幾つもの貴重な話、また何よりも貴重な経験を聞かせていただいて、本当に感銘を受けました。

また、ご発表を頂きました、まず田原本町寺田町長様のまちづくりの方向、大変、敬意を尊敬いたします。この中で、1つは一市一まちづくりということを県、提唱いたしましたが、来年度予算からは、一町一村一まちづくりということも予算化しておりまして、一町一村のまちづくりをお助けしていこうということでございます。県もそれなりの広域的な観点からこういうまちづくり、良いんじゃないかという提言はさせていただきますが、これはコラボレーションが必要かと思えます。その中で、民間の方、あるいは関係の方の、先ほど松井市長さんがおっしゃいました、まとまりをどうするのかというのが課題になってくると思えます。いろんなまとまりをどうするのかというのが課題になってくると思えます。そのようなことがございますので、1つは県の職員も市の職員も、まとまりをつくる上での馬力を発揮せないかんとということでございます。この夏までに、来年度予算で市と県のまちづくりの職員のセミナーとか、勉強会をすることを考えております。いろんな先生、立派な先生に来てもらって、まちづくりのノウハウを身につけてもらうようなセミナーを開催したいと思っておりますので、市町村におかれましては、職員の派遣、経費は要らないと思えますが、職員の派遣を考えていただければと思います。ノウハウを身につけるということをしたいと思えます。

もう1つは一市一まちづくりでもございますが、先ほどの安堵町の西本町長さんから広域的にいろんなことも考えたらということもございまして、他の地域でもございまして、1つの市だけやなしに、広域的な地域振興を図るための懇話会をそれぞれでできるところからつくっていきたいと思っております。例えば、来年度の予算でしたいと思っておりますのは、葛城市、香芝市、御所市、大和高田市、広陵町の中和、西和の広域地域振興懇話会といったような形、このサミットよりも地域ごとでまとまったようなものを作りたいと思えます。南和全体は南和のいろんな協議会がございまして、もう1つは、宇陀市、曾爾村、御杖村、あるいは山添村など、東部の懇話会をしたいと思っております。また、そのほかの地域でも、こういうことは地元の市長さんとか、町村長さんの呼びかけがあって、県が

それではということで動かしていただいているものでございますので、地元の市町村様から、こういう地域でもこういうテーマでやったらどうかというのがございましたら、また一緒に連携をさせていただきたいというふうに思っております。

もう1つはものづくりの点でございますが、奈良は人口が明治の初めは49万人ぐらい、50万人弱でございましたが、人口が80万になったのは、昭和30年でございます。その間、とつとことつとこで約30万人が増えた県でございますが、昭和30年の80万人から、平成の初めまでに60万人、あつという間に140万人になってしまいました。この60万人増えたときの跡をたどってみますと、夜間人口ばかり増えて、夜間人口ばかりということ、昼間人口が増えなかった。働き口が増えなかったということでございます。ちょっとは増えているんですけども、夜間人口の伸びが圧倒的に多かったということは、大阪に行かれる方を奈良で、ベッドタウンで吸収したと。それで、働き口と住まいのアンバランスがこの時期、生じてきたということで、これから、各市町村の住民税が激減します。今まで人口急増に走っておられた市町村は、住民税が激減します。退職されてですね。これにどう対応するかというのは、奈良県全体のととても大きな課題です。法人税が少ない県ですので、一挙に増えませんが、しかも、高齢者ばかりですので、高齢者の支出が激増します。これがすごく大きな課題でありますので、それにどう対応するかというのは、とても深刻な問題であります。それをまちをつかって、高齢者の受け入れと職場の受け入れをするということでございますので、田原本町のようなまちづくりを、地域、地域が元気になっていきますと、そこに人口がちょっとでも貼りついて、育っていくという形ができてくると思いますので、地域、地域の雇用と住まいを確保するのに、是非、頑張りたいと思います。田原本町の中では、大変立派な案をつくられましたので、県としては全力でご支援申し上げたいと思います。その中で、ほかの市町村も同じですが、県有地、県施設がありましたら、全面的に利用していただけたらと思います。利用していただくのは、市の方が利用されますと、これまた、利用の仕方というのはいろいろ、まちづくりの中での利用の仕方、まちづくり計画を出していただいた上での利用の仕方ということはいいかと思います。また、民間に利用していただくときがありますが、それも県有地を民間利用でも結構でございますが、田原本町では、サッカー場をつかって県有地、高校跡地をサッカー場に転用いたしましたときに、田原本町長は固定資産税をサッカー協会のために補助金を出していただきました。そのようなことを考えていただきますと、県有地の民間利用が大変やりやすい。それは、民間利用がありますと、先ほど、これから奈良が

大変になるときの雇用、あるいは働き場所、住まいの場所がそういうことで出てくるということでございますので、高齢者だけではなく、労働人口が貼りつくような利用をしていただき、そのための固定資産税を補助金に使っていただくというのは、県有地をそのように使っていただくのは大歓迎でございますので、いろんな場所を考えておいていただきたいと思います。

それから、田原本のこの地域は河川が脆弱で、洪水が起こりやすい。大和川のほうまでそうですけども、県では大和川水系河川整備計画の中で、遊水池をつくろうと、洪水のときの減災のためのため池をつくろうということを国交省河川局に申し入れております。田原本町ということではございませんが、大和川の王寺まで至るふもとにあって、遊水池をつくろうと。遊水池は、日ごろは空でございますので、駐車場にでも、あるいは農地でもいいんですけども、ほかの施設に利用し得るという意味がございますので、そのような利用の方向もご検討の対象に入れていただければ、ありがたいと思っております。まだまだアイデアの中身があらうかと思いますが、それぞれ声をかけあって、議論を深めて、まちづくりの助け合いをさせていただけたらというふうに思います。本日はありがとうございました。

【中尾地域デザイン推進課長】 白熱したご議論、貴重なご意見を頂きありがとうございました。山出先生、本当に貴重なご助言をありがとうございました。

【司会】 今年度は本日のサミットが最終となります。皆様には、サミットの運営にご協力を賜りまして、ありがとうございました。

最後になりましたが、山出先生、本日は長時間、誠にありがとうございました。皆様、先生に感謝の気持ちを込めまして、盛大な拍手をお願いいたします。(拍手)

それでは、これもちまして本日のサミットを閉会させていただきます。皆様ありがとうございました。

— 了 —